
滝のオンパレード！葛野川・深入沢

西 正子

●2016年5月21日(土) 晴れ

●メンバー 白井 西A 西M

●コースタイム

深城ダム駐車場(7:00)→二俣(9:20)→下山に
使う尾根(10:40)→深城ダム駐車場(12:10)

この時期の恒例となった「沢トレ」。今年は、葛野川深入沢で行いました。参加者は3名で、ややさびしいわらじ始めでしたが、他の人にも合わず、静かな遊行を楽しみました。

深入沢は、葛野川ダムのひとつ手前、深城ダムから北方向、松姫峠と奈良倉山をむすぶ尾根に伸びる沢で、大菩薩山系の東端に位置します。

無名の沢でしたが、「東京起点沢登りルート120/宗像兵一氏・編著(山と溪谷社)」に掲載されてからは、アプローチの良さもあり、多くの遊行者を迎え入れています。

朝4時30分、出発。(白井さんだけだったので、前夜、西宅に来ていただきましたが、早朝に東京を出れば日帰りも可能)7時前に、深城ダムの駐車場に着きました。ダム見学者用の駐車場ですが、ちょうど出てきた管理人さんはとても友好的で、ほっとしました。

少し戻った深入橋から下ります。橋上から見下ろすと、V字谷のはるか下に水音が聞こえます。しかし、あたりは濃い緑におおわれ、その姿を見ることができません。深い深い谷でした。

橋の脇のパイプ階段が入口です。落ち葉が重なる不安定な急斜面を慎重に下ります。約80m。後から考えると、ここがいちばんの核心部だったかも・・・と思えるような下りでした。

たどり着いた入渓点でしたが、兩岸はそびえるように立ち、強い冷気が漂っています。森が日差しを遮り、晴天にもかかわらず、陽光がほとんど

入りません。

いきなり滝のお出迎えです。最初の7m、次の10mの滝は、いずれも右を小さく巻きました。

その後は、2~5mの、さまざまな個性ある滝が次々現れ、遊行を楽しいものにしてくれました。深い釜にドボンと浸かったり、それがイヤなら微妙なへつりにチャレンジです。水流ぞいの滝登り。服を濡らしたくなければ小さく高巻いたり・・・。ひとつの滝に対して、さまざまな接し方ができる創造的な沢でした。

水が勢いよく宙を飛び、10mの滝を見たときは「これは！」と思いました。が、下部はホールド、スタンスとも豊富で、唯一立っている落口は、ちょうどよい場所に木の根が伸び、これを掴んでよじ登りました。

その上が870mの二股でした。左右に10mの滝を掛け、きれいな場所です。右に入り、傾斜のゆるいナメ滝を登りましたが、思ったよりぬめりが強く、少し緊張するフリクション登りでした。

この滝を上がったところで遊行を終了。明確な支尾根を詰め上がりました。沢慣れしていない体はつらい傾斜でしたが、ヤブもなく、1時間ほどで下山に使う尾根に飛び出しました。ほぼ予定通り、1130m地点でした。

ここからは、なかば山仕事の道を使い、忠実に尾根を下りました。途中、間違いやすい1015m分岐点も、「ヤブ山の王者」白井さんのおかげで事なきを得て、珍しいことに、スムーズに下山することができました。

温泉は「小菅の湯」。トンネルができてから、峠を越える苦労もなくなりました。

2016年の沢トレは、さまざまなタイプの滝がバランスよく整い、充実した一日を過ごすことができました。これからはじまる沢シーズン。事故に注意して、楽しい水遊びをしたいものです。